



「学ぶ」「鍛える」「豊かな心」

かわぐち

地域運営学校「コミュニティかわぐち」

地域運営学校

八王子市立川口中学校

学校だより 第4号

令和7年7月4日発行

TEL 042-654-2485

川中プライド 「あいさつ」「けじめ」「思いやり」

『 読書のすすめ 』

八王子市立川口中学校
校長 寺沢 亮



梅雨入りしたとはいえ、すでに真夏のような厳しい暑さが続いております。その暑さの中でも、川口中の周りではツバメが飛び交い、ひたむきに巣作り・子育てに励んでいます。7月に入り、1学期のまとめの時期となりました。

さて、今回は「読書」についてのお話をします。

江戸時代末期、日本に来たイギリス人たちは、江戸の町で目にしたある光景に驚いたといいます。それは、商人や農民といった庶民が当たり前のように本を立ち読みしている姿でした。そのため、「この国の民は知識を備え、自ら考える力をもっている。この国は植民地にできない。」と感じ、日本への対応を改めたと記録されています。

実際、江戸末期の日本人の識字率は90%を超えていたとも言われ、当時の西洋列強諸国が30%前後であったことと比べても、日本がいかに「読み書きの国」であったかがわかります。また、江戸時代に来日したドイツ人医師ケンペルも、「ほとんどの日本人は字が読める」と記しており、庶民の教養の高さに驚いていました。

かつて、日本人ほど本を読む民族はいなかったこととなります。このことは、私たちにとって誇るべき伝統であると同時に、今改めて見直すべき文化でもあります。しかし、近頃はその伝統が大きく揺らぎつつあるようです。

令和5年度文化庁「国語に関する世論調査」によると、月に1冊以上本を読む人の割合は、平成30年ごろまではおおむね50%台を維持していました。しかし、令和5年の調査ではその割合が36.9%まで下がり、本を読む人が急激に減っていることが明らかになっています。特に若い世代では、「月に1冊も読まない」という人の割合が増えており、本を読むという行為自体が、日常の中から少しずつ消えつつあります。

私自身、高校までの学生時代は部活動に夢中で、読書にはあまり時間を割いてきませんでした。今振り返ってみると、「もっと若いうちに本を読んでおけばよかった」と悔やまれる思いがあります。大人になってから出会った本の中には、「これは10代の頃に出会っていたら、どんなに心を揺さぶられただろう」と思うものも少なくありません。若い感性だからこそ深く受け止められる言葉、時期を逃すと届きにくくなる問いかけ、など、読書には、そのような「時機」というものがあるのだと、今になって気付かされます。スマートフォンのように、便利で即時的な情報に触れることがすべて悪いわけではありませんが、画面を眺めているだけでは得られないものが、読書には確かにあると感じています。言葉にじっくり向き合い、想像力を働かせ、自分なりに解釈する、そうした読書の営みは、心の深い部分を耕してくれる貴重な時間であると改めて感じます。

また、読書は、単なる知識の習得にとどまりません。人間の判断力や価値観は、自らの経験を通して形成されますが、一人の人間が一生を通して経験できることには限りがあります。だからこそ、読書は、時空を越えて他人の経験を追体験させてくれるという、大きな意味をもちます。異なる時代、異なる文化に生きた人々の考えや感情に触れることで、他者への想像力や、深く物事を考える力が育まれていきます。読書によって養われるそのような広い視野や大局観は、目まぐるしく変化するこれからの時代を生き抜くうえで、私たちが身に付けるべき普遍的な力だと思います。

「玉、磨かざれば器をなさず。人、学ばざれば道を知らず。」この言葉は、中国古典『礼記』の一節です。どれほどの素質をもっていても、学ばなければ光ることはありません。人もまた、学ばなければ、自らの生き方や進むべき道を知ることができないのです。読書は、その「磨き」の原点となる営みであると考えます。

7月に入り、1学期もまもなく終わります。夏休みは、心と体を整えると同時に、自分を深める大切な時間でもあります。ぜひこの夏、1冊でも多くの本と出会ってください。学校図書館や市立図書館には、皆さんの人生を変えるかもしれない本が待っています。10分でも15分でも、本を読む時間を生活の中に取り入れてみてほしいと思います。

読書の習慣は、きっと皆さんの一生の財産となるはずですよ。

小中一貫教育の日

川口小、上川口小、美山小、松枝小の先生方と合同で研究しています

7月2日(水)は川口中学校ブロックの小中一貫教育の日でした。小中の教員による協働的な研究会を年に3回実施しています。今回は本校での公開授業と協議会を通して、義務教育9年間で育てるべき児童・生徒像に迫る研究を行いました。学びの連続性を意識した実践は大変有意義であり、児童・生徒の成長を支える手ごたえを感じました。今後も、生徒の生きる力を育むための教育の在り方を探究し、より良い学びを実現する研究を続けてまいります。



おすすめの図書

本校図書室の「文豪 文庫」のコーナーにあります！

『野菊の墓』 伊藤 左千夫／著

みなさんは、「本当の気持ちを言えなかったこと」や「大切な人とのすれ違い」を経験したことがありますか？ 伊藤左千夫の『野菊の墓』は、そのような切ない気持ちを、静かで美しい文章で描いた名作です。この作品は、今から100年以上も前に書かれたものですが、思春期の揺れ動く心や、感情表現の不器用さは、今の私たちにも通じるものがあります。作者の伊藤左千夫は、もともと歌人でした。そのため、彼の文章には素朴で飾り気のない美しさがあります。難しい言葉や派手な表現は使われていませんが、だからこそ、登場人物の気持ちがまっすぐに伝わり、読む人の心に深くしみわたります。その静かな文章が、かえって涙を誘います。中学生の皆さんであれば、2時間程度で読み終えることができます。

～ 不登校をテーマとした保護者サロン ～

不登校の子どもたちを支援するために、保護者対象の講演会を開催します。

希望者は夜間学級の実際の授業が見学できます。どうぞお気軽にご参加ください。

- 対象 市内在住で小・中学生の保護者
- 日時 9月26日(金) 午後5時45分から午後8時頃
- 会場 八王子市立第五中学校
- 内容 (1) 講演 「不登校の子どもたちが活用できる本市の資源」～中学校卒業後の進路という視点から～
講師 八王子市スクールソーシャルワーカー
(2) 第五中学校夜間学級の説明および見学
講師 第五中学校長ほか
- 定員 30名(先着順)
- 受付開始日 **令和7年9月1日(月)**
右の2次元コードからお申し込みください。インターネット環境がない場合は電話による申し込みも可能です。下記の電話へご連絡ください。
- 問合せ・電話での申し込み
高尾山学園内 教育指導課登校支援担当電話：663-3216
- その他 会場に駐車スペースはありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。



当面の予定 ※事情により変更の場合があります。

7/4	金	学校説明会 (R8 新入生保護者対象)	19	土	
5	土		20	日	
6	日		21	月	海の日
7	月	安全指導 専門委員会	22	火	大掃除
8	火		23	水	終業式
9	水		24	木	夏季休業日始 三者面談期間始
10	木		25	金	
11	金	保護者会 (1・2年) 進路説明会・高校の先生の話聞く会 (3年)	26	土	
12	土		27	日	
13	日		28	月	
14	月	生徒会朝礼	29	火	三者面談期間終
15	火		30	水	はちおうじっ子サミット
16	水		31	木	
17	木		【 8月の予定 】		
18	金	避難訓練	2学期始業式 8/27(水) 引き取り訓練 8/28(木) 給食開始 8/28(金)		